

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 『イギリス』と國號の變化  |
| Sub Title        |   |
| Author           | 間崎, 万里(Masaki, Masato)  |
| Publisher        | 三田史学会   |
| Publication year | 1930  |
| Jtitle           | 史学 Vol.9, No.1 (1930. 3) ,p.102- 102  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            |   |
| Genre            | Journal Article   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300300-0102">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300300-0102</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 『イギリス』と國號の變化

我等は『英吉利』、或は近時一般の用法としての假名書や『イギリス』から言葉を用ゐる。イギリスとは言ふ迄もなく英語の England の譯語であつて、その語源がアングル人の國土を意味したから生じたものであることは疑問の餘地がない。しかし、今日に於ては、邦語にする英語にしろ、イギリスの意味はその様な簡単なものでなく、歴史的内容の變化と共に複雑さを増してゐる。恰も大戰後 Das Deutsche Reich; German Empire 等に於ける Empire から言葉が、同一の言語を用ひ乍ら、戰前と意味を異にし、前者に於ては『帝國』後者に於ては『共和國』と譯すべきであつて、イタリ共和国の新憲法邦譯に際し、美濃部達吉博士は(古しきかれば)帝國とか共和國とか言はなうや『國大統領』(國議會)からや如く、單に『國』と譯された様な次第で、而もそれは近代外國語の用法にしては複合國、大國の意味である。然るに(Emperor)の意味に就いては、川田譯論大正十年九月號に述べた通りであるが、この『イギリス』から言葉も地理學上の慣用では大アリテナ島の南方の部分に限られたるわれりも、通例は西ヨーロッパの大島國に與へられた名稱なのである。われせんや、近時大分評判のよおいた "England" ("The Modern World Series) の著者ロハムのヤム・ホールの副監督 Inge 誰も回書の榜頭に於て "The large island off the north-west coast of Europe, which we called Great Britain, but which continental nations often called England,....." と記す。

Great Britain の謂は、即ち Britannia Minor 即ち今日のハンブルクのバルター島を區別するため附與せられた Britannia Major と讀したるやあるが、國名としての公稱は一七〇七年、英蘇兩國の合同の時よりして用ひられたのである。その後一八〇〇年の英愛合同法によつて翌一八〇一年の一月一日から、英威蘇愛よりなる合衆王國を、United Kingdom of Great Britain and Ireland と公稱するに至つたけれども、大戰後愛蘭南部が自治を得て Irish Free State と稱するに至つて、諸自治領の勢力増加と共に、英帝國全般の組織改造を必要とするに至り、一九二六年の Imperial Conference の提議により、王號も從來 "George V, by the Grace of God, of United Kingdom of Great Britain and Ireland and of the British Dominions beyond the Seas King, Defender of the Faith, Emperor of India."

ヤム・ホール、著者、�せ

"George V, by the Grace of God, of Great Britain, Ireland and the British Dominions beyond the Seas King, Defender of the Faith, Emperor of India."

やだ、英本國せぬの『大不列顛』たる名稱は復歸したるものであるが、世俗には今以て United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland (the Statesman's Year Book for 1929) と使用せられ、又國際聯盟では "British Empire" たる言葉が、一體の用法に取れて、英の他の自在領を區別せんと、Great Britain の意義に用ひられてゐる。("Great Britain and the Dominions, The Norman Wait Harris Lectures 1927, Chicago, 1928, p. 93.) と見ゆる『イギリス』から言葉は、その何れにも適用せらるるやあるから、讀ゆる上に關への上、甚だの注意を要する次第である。(題崎万里)